

第二回 水産物流通標準化検討会 概要

1. 日時：

令和5年10月3日（火） 12：15～14：00

2. 場所：東京都中央卸売市場豊洲市場 講堂

3. 出席者：

<委員>

栗林	秀生	中央魚類（株）	経営戦略室 副室長
中村	哲	大都魚類（株）	執行役員管理部長
村山	弘晃	築地魚市場（株）	取締役常務執行役員
菊島	幸司	第一水産（株）	取締役営業副本部長
天童	修	丸千千代田水産（株）	流通管理部長
植木	公雄	綜合食品（株）	常務取締役
中濱	菊緒	豊洲物流（株）	代表取締役社長
椎名	幸子	中央運送（株）	代表取締役社長
松本	正和	（株）東発	代表取締役社長
永井	洋司	永井（株）	代表取締役
赤上	信弥	（株）秋田市場運送	代表取締役
江崎	隆徳	（株）エンデバー	代表取締役
伊藤	裕康	東京都水産物卸売業者協会	会長
浦和	栄助	東京都水産物卸売業者協会	専務理事
山口	琢磨	（一社）全国水産卸協会	専務理事

<行政>

南波	伸也	東京都中央卸売市場市場政策課	課長
松下	弘樹	東京都中央卸売市場豊洲市場水産農産品課	課長
藏谷	恵大	農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部食品流通課	課長
戎井	靖貴	農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部食品流通課 卸売市場室長	

<オブザーバー>

贅田	翔	水産庁漁政部加工流通課	課長補佐
磯崎	真	（一社）豊洲市場協会	専務理事

4. 議事概要：

<農林水産省から、以下資料について説明後、意見交換>

資料1：水産物輸送の実態把握アンケート調査結果

資料2：パレット管理ルールモデル等の策定に向けて検討していただきたい事項

資料3：物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関する
ガイドライン

【各構成員からの主な発言】

1. 総論

- ・調査結果は構成員の感覚と合っている。
- ・パレットの標準化（パレットの使用・プラスチック・11 型）について賛成。
- ・積み付けパターンの参考化について賛成。ただし、加工品については箱サイズが不揃いで内容が沿わない場合があるほか、荷物量によって変わってくる可能性がある。
- ・パレット管理ルールではコストの負担などの問題があるが、まずはパレット管理を前提としたプラスチックパレットでの等枚交換を推進していくほか、メリットの整理を進め、小さいエリアから進めていくべき。
- ・今回（第二回）の意見を踏まえ、第三回目でガイドラインをとりまとめる。

2. 水産物輸送の実態把握アンケートの調査結果について

- ・産地発輸送における積み込み時間で 2 時間超も多いが、原因は何か。
 - 複数個所に配荷する場合、最後に下す荷から順にトラックの奥に積み込むことが必要で、先に積み込む荷が来ない限り作業が止まってしまうことから、積み込みの所要時間が長くなっている。
 - 一般の荷の場合、何をどのように積み付けるか分かっているが、水産の場合、当日取引で買って最後の荷が揃ってはじめて積み方が確定する。水産の特性なので改善は難しい。
- ・豊洲市場ではほとんどのパレットが雑パレットであるが、パレット化も進み、調査結果を見ると所有権はないが等枚交換が思っていた以上に行われていると分かった。
- ・調査結果では、水産では箱サイズが不揃いの傾向がある様子だったが、青果では箱（ダンボール）の規格化がされているところ。統一とまではいかないが、徐々に収束させていければと考える。

3. パレットの標準化について

- ・パレット利用を標準化する事は賛成だが、積載量を増やすためバラ積みを行っている事業者もいるため留意する必要がある。冷凍倉庫では 12 型パレットが多くみられるが、標準パレットとしては、11 型・プラスチックであるべきだろう。
- ・パレット使用への標準化に向けては、産地での積載率が上昇し、パレット輸送のメリットを感じられることがポイントになってくると考える。
- ・プラスチックパレットを標準とし、木製パレットを減らしていくのは異物混入防止の観点からも賛成。国の補助金による施策支援をいただければスムーズに進むと思料。
- ・11 型プラスチックを標準とするには流通している枚数が少ないのではと感じる。現状でも 11 型木製パレットは多くみられ、木製パレットでの等枚交換は簡単だがプラスチックとなると、枚数が少ないので積み替えに時間がかかっている。
- ・11 型パレットを標準とするのは、一番手に入りやすいのが 11 型だからという要素が強いからなのではと考えられる。

4. 荷物の積み付けルールの参考化について

- ・荷の積み付けパターンは参考でよい。（多数）
- ・加工品の場合では箱サイズの大きさが不揃いのため、積み付けパターンの参考化では内容が沿わない場合がある可能性がある。
- ・市場から出ていく荷は行先によって量がバラバラであり、センターと店舗でも差があり、積み付けパターンは変わる。

5. パレット管理ルールについて

- ・パレット管理ルールモデルはそのとおりだと思うが、冷凍倉庫から出るパレットを把握しきれておらず、現状では管理契約まではできないのではと考える。
- ・豊洲市場における荷の窓口である豊洲物流と協力し、どのように管理していくのか検討が必要。枚数管理は現状難しいが、お互いが納得できるような手法が望ましい。
- ・荷の入りは管理が可能かもしれないが、豊洲市場から出ていく荷については配送先毎に分荷されるのでかなり細かくなり、どう管理していくかが課題となるだろう。
- ・パレット管理では台帳の活用が想定されるが、もし管理するとなれば誰が台帳を管理するのか、回遊しているのを管理するのは難しいと史料。
- ・我々（水産卸）の現在の手数料では、台帳管理や、自社管理パレットを購入して使用していくコストを賄うのは現実的ではない。
- ・管理パレットの導入は理想だが、管理には時間と手間がかかり、輸送先で下す際に積み替えて回収するのは困難なうえ、市場外は他の事業者のパレットも混在するので、管理パレットが潤沢に回っていなければ同質の等枚交換は現実的ではないと考える。補助金等を使用し、管理パレットを潤沢に流通させるとよいが。
- ・産地から豊洲市場までの流通は、今は雑パレットの等枚交換で回っており、管理パレットを進めていくには現場の輸送業者の理解を得ていくことが重要。「現状を変えることにメリットはあるのか」というのが現場の考えなので、「所有権」で切り込んでいくことが望ましいのではと考える。
- ・パレット管理ルールは小さいエリア（閉じられた世界）の中で実現可能と考える。関係者と話して検討してみようと思う。将来的にはデジタル化を図り、パレットにチップを埋めて管理する手法の可能性もある。
- ・当社ではパレットを 5,000 枚導入し、社外に流出しないよう管理体制を敷いていたが、3 年後には 3,000 枚になっていた。以前導入したパレットは当時 2,800 円だったものが現在 3,500 円に高騰しており、紛失分を補うのは容易ではない。北九州のとあるセンターではパレットで荷が集まり、カゴ車を使用してセンター外へ出荷していることからパレットが溜まってしまったため、第三者が持ち帰ってもいいこととなっていたが、現在はパレット不足のため 1 枚持ち帰るのに 800 円支払うことになっている。管理パレットを導入するとしても価格高騰でコストがかかる上に、管理パレットが返ってくる確率は低いので、是非助成をお願いしたい。
- ・パレット管理は各社まちまちであり、バラバラに管理しているものをどうやってまとめていくか、理想的ではあるが実現にはパワーが要る。
- ・従来、水産物はベタ積みが普通であり、積載する荷物量の減少と流通の合理化が相まってパレット化が進んだ。当時は市場に集まった雑パレットを使用することから始まったのでコスト認識がなく、パレットの管理という概念もなかった。これからパレットを管理していく中で、従来コストが掛からなかったものが明確な負担になるというのは対応が難しい問題。何が有益で誰が負担するのか整理する必要。打開するには異なる組織間でモデル化して、動機付けをしていくことが重要と考える。現在、流通の合理化や資源の問題、SDG s の考えにより他業界でのパレット管理の認識は強くなっており、我々は生鮮流通が持続できるか岐路に立っている。
- ・台帳管理の活用で、かえってコストが掛かってしまう場合も考えられる。コストがかからない管理手法（QR コード等）を模索していくのもいいのでは。

6. その他

- ・水産物輸送は様々な形態が存在し、全てを標準化することは難しい。出来るところから着手していくことが重要。
- ・豊洲市場でトラック予約システムを導入できるのかどうか、気になっている。現状でトラックドライバーの労働時間の改善基準告示を守れるのか。
- ・青果のように1品目をトラックに積むのではなく、水産は少量多品種なので検品に多大な時間がかかる。農林水産省にはデジタル化の環境づくりを希望する。
- ・豊洲市場内で荷の物量が増えた時に備えて、パレットを過剰に保持しようとする事業者がいる。共通化ができれば、パレットの不足感への解消につながると考える。
- ・豊洲物流は24時間体制で1階・3階で荷受けを行っており、昔は22時～2時が荷受けのピークだったが、今は2時間前倒しになっている。
- ・豊洲物流では1日にプラスチックパレット・木製パレットそれぞれで400枚～500枚を等枚交換しており、1階・3階に入ってくるトラックは一日に80台ほど、そのうち1階は40%が大型トラック(10t)。一日に相当数の等枚交換を行っており、責任を持って産地にパレットを返している。しかし、卸から先については、1枚のパレット荷が市場内で3～5枚へ分荷する場合もあり、行先が細かい上に行先に到着したパレットがどうなるのかも認識できない。ここをクリアにしていかなければ、これから豊洲市場内のプラスチックパレットはどんどん減っていくと思料。現在取り合いの状態になっていることもあり、懸念事項である。
- ・当社は4階における転配送を担当しており、1日に場内だけで流通させるパレットは120～150枚、他市場への転送を含むとその倍の数を配送している。業務を行うためには個社でそれぞれパレットを4日～5日分ストックしておかなければ回らず、市場内のパレットの置き場所がない問題が発生している。ストックしたパレットを持っていく者もあり、管理の難しさを感じている。
- ・当社では伊豆諸島神津島村との魚の運送で、当社で購入した特定パレットを用いて、荷下ろしを30～40分から5分に短縮できた。また、特定パレットを送れば荷を積んで返してくれるので、部分部分に絞って所有パレットに改善していくことが重要と思料。
- ・現在、豊洲市場ではパレットの廃棄が問題となっており、コストが年々増加傾向のため、市場協会のゴミ処理に膨大な費用がかかり、都の補助はあるが負担となっている。
- ・豊洲市場では2022年度はパレット処分量が2,102トンでパレット1枚20kgとすると10万枚処分している。水産物部における年間ゴミ処理量約1万トンに対し、パレットの処分量は約2割を占めている。今年度のパレット処理量は2,300トンに達する見込み。パレット処分量の内訳はプラスチックが1,082トン、木製が1,020トン。プラスチックの場合、処分前に破碎が必要で市場内に1日5トンまで処理可能な破碎機を導入しており、それ以上はトラックに積んで処分場に運搬している。パレットの収集・運搬・処分費で年間5,500～6,000万円のコストが生じており、水産物部全体のゴミ処理費用年間約5億5,000万円の約1割を占めている。近年水産物の取扱量は減少傾向であるが、以上のとおりパレット処分量は増え続けており、調査しようにも実態が見えてこないところ。築地時代のような第三者による不法投棄は発生していないと確認はしている。

(以上)